

2023年度

授業概要

科目名	聴力検査Ⅱ			授業の種類	演習	講師名	
授業回数	15 回	時間数	30 時間 2 単位	必修・選択	必修	配当学年 時期	ST2年 後期
【授業の目的・ねらい】 前期の「聴力検査Ⅰ」での自覚的聴力検査に対して、このⅡでは、他覚的聴覚検査について目的と理論を理解し、手順を習得する。また、「聴覚検査Ⅰ」で学習した検査と総合し、自覚的・他覚的聴覚検査を対象者に合わせて選択し、聴覚的アセスメントができる。							
【実務者経験】 言語聴覚士として、大阪医科大学附属病院耳鼻咽喉科、健寿協同病院、中国補聴器センター、児童発達支援センター岡山かなりや学園、児童発達支援事業所ぐるぐるめろん島（めろんグループ）にて、成人と小児の聴覚障害分野及び小児の発達障害分野の検査と指導・療育に従事した。 現在は、岡山県更生相談所にて聴覚障害分野での検査・評価と、児童発達支援事業所アート・チャイルドケアSEDスクール岡山豊成教室にて小児の発達障害分野での評価・療育に従事している。							
【授業全体の内容の概要】 他覚的聴覚検査の理論と方法を、教科書と演習や画像等により、検査手順を身近なものとして学習し、検査結果と病態の関連付けを一層進展させる。1年で学んだ「聴覚系の構造・機能・病態」や「耳鼻咽喉科学」の内容も含める。また、関連する国試の過去問題にも取り組む。学習形態はグループで行う。							
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 1. 他覚的聴覚検査の名称と目的・理論と、検査機器を知る。 2. 他覚的聴覚検査を実施し、結果を記録できる。 3. 自覚的聴覚検査も含め、検査結果を読み取り、所見を書くことができる。							
回数	講義内容					準備物(教材)	
1	「耳の構造と機能」と聴覚検査（自覚的・他覚的）の関係を理解する。					教科書、配布資料	
2	インピーダンス・オーヂオメトリーの理論とティンパノメトリーができる。 小テスト1					教科書、配布資料	
3	インピーダンス・オーヂオメトリーの内、音響性耳小骨筋反射検査ができる。 小テスト2					教科書、配布資料	
4	インピーダンス・オーディオメトリーの結果から、聴覚病理の判定を想定できる。 小テスト3					教科書、配布資料	
5	耳管機能検査の理論と方法、並びに検査対象を理解する。					教科書、配布資料	
6	聴性誘発反応の種類と理論を理解し、検査結果を読み取ることができる。 小テスト4					教科書、配布資料	
7	耳音響放射（OAE）の種類と理論を理解し、検査ができる。 小テスト5					教科書、配布資料	
8	耳鳴検査の種類と方法を知り、検査ができる。 小テスト6					教科書、配布資料	
9	伝音難聴をきたす疾患に対して、聴覚検査バッテリーの選択と結果説明ができる。					教科書、配布資料	
10	感音難聴、混合性難聴をきたす疾患に対して、聴覚検査バッテリーの選択と結果説明ができる。 小テスト8					教科書、配布資料	
11	後迷路性難聴に対する聴覚検査バッテリーを選択することができ、結果説明ができる。					教科書、配布資料	
12	機能性難聴に対する聴覚検査バッテリーを選択することができ、結果説明ができる。					教科書、配布資料	
13	選別聴力検査の種類と方法を知り、実施できる。					教科書、配布資料	
14	聴覚検査に関わる法令における聴覚検査を実施し、記録できる。					教科書、配布資料	
15	国家試験過去問題の内、関連問題に正答できる。					教科書、配布資料	
	定期筆記試験						
【使用教科書・教材・参考書】 聴覚検査の実際 改訂4版							
【準備学習・時間外学習】 演習を主体にする為、教科書を前もって音読しておくこと。							
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する。 小テスト（10回実施）を50点、定期試験を50点として合計100点とする。 60点以上の場合に科目を認定する。							